



〒283-8555 千葉県東金市求名1番地 Tel : 0475-55-8812 Fax : 0475-55-3265

URL : <https://library.jiu.ac.jp> Mail : [library@jiu.ac.jp](mailto:library@jiu.ac.jp)

## ひとの最期はゴール？

環境社会学部 名本 光男

2020年は新型コロナウイルス感染症に始まり、そして終わる1年となりました。特に、このウイルスが日本に上陸した初期にコメディアン志村けんさんが感染し、短期間で亡くなってしまったことの衝撃は大きく、彼の死により、このウイルスの存在は、広く知れ渡り、多くの人に、このウイルスに対する恐怖を植えつけることとなりました。

そして、現在では、重症者数は日々増加の一途を辿り、多くの方が生死の境を彷徨っています。

このような現状から、このウイルスによる「死」は、感染した方の親しい方々が死に目に会えないなどの悲しい現実もあり、所謂「敗北」と考えられていると言ってもよいのではないのでしょうか。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症による「死」は悲劇ではありますが、果たして、人の「死」は「敗北」なのでしょうか。

訪問診察医の尾崎容子さんによると、病院とは「病気の人に『医療を提供』したり、『病人を収容』したりする施設」であると言います。一方、病院に行く側からすれば、「病院＝病気を治してほしいと思っていくところ」であると言います。

このような視点から、「死」を考えると、「死」は敗北となってしまいます。そして、彼女によれば、専門である「死を内包した医療（＝終末期医療）は、前向きでないから興味がない」という考えの医師もいると言います。

「死」は、人が生物である以上、誰もが避けて通れません。彼女は、人は誰もが「敗北」の末に「死」を迎えるのではなく、それを「ゴール」とみなすべきではないかと提言しています。つまり、より良い人生の終わりを迎えることができるようにサポートするのが終末期医療ではないか、と行うことができると思います。

そして、人は人生の「ゴール」を迎えた後はどうなるのでしょうか。果たして、人は「死」を迎えたあとは「無」に帰ってしまうのでしょうか。現代社会は、それについての答えを用意してはいません。

先日、某出版社の女性編集者と話をする機会がありましたが、彼女によると、人は「死」を迎えたあとは「無くなってしまおう」と言います。人生の「ゴール」の先に「無」が広がっているのだとすると、人はこの世に生を受けてから死を迎えるまでの間に、なぜ多くの経験をし、感動をし、喜び、悲しみ、苦しんできたのでしょうか。

この答えについては、現代の科学は何も答えてくれはいません。

しかし、人の「死」については、それが本当かどうかはわかりませんが、世界中の民族に存在してきた、多くの物語がそのヒントを提示してくれています。

ぜひとも、この機会に、みなさんの属する民族の中にある「死」にまつわる物語に触れて、人の人生の意味をもう一度考えてみてほしいと、私は思います。

最後になりましたが、新型コロナウイルス感染症にかかられた皆様にはお見舞い申し上げます。

そして、この感染症にてお亡くなりになられた方につきましては、お悔やみ申し上げます。

SciFinder-n(サイファインダー・エヌ)は、研究者が必要とする科学情報を、高度な検索エンジンとシンプルで使いやすいインターフェースにより、最短ステップで提供する検索ツールです。論文・特許に加えて、世界中の化学物質および化学反応情報を網羅的に検索できます。

詳しい利用方法やオンライン講習会の録画が、化学情報協会のホームページ内で公開されていますので、ぜひご覧ください。 <https://www.jaici.or.jp/scifinder-n/>

次の通り、オンライン講習会の開催を予定しておりますので、是非ご参加ください。

★2021年2月16日(火) 13:30~

詳細は図書館HP「お知らせ」に随時掲載していきます。

library@jiu.ac.jpへメールでも参加の申込ができます。



紀尾井町  
キャンパス

覆面本貸出



現在、紀尾井町キャンパスでは、冬のお楽しみ企画として「覆面本」の貸出を行っています。覆面本には、本の中味が分からないようにカバーをかけてあります。借りるまで、どんな本なのか分からない、というお楽しみです。ヒントとなる指標をご覧ください。

芥川賞・直木賞の展示

2020年12月18日に芥川賞・直木賞候補作が決定されました。所蔵のないものも入荷次第展示しますので、皆様ぜひお手に取ってご覧ください。受賞作の発表は1月20日の予定です。



「日本の暦(こよみ)」の展示

年が明けて、新しいカレンダーを飾った方も多いと思います。日めくりカレンダーは、よく見ると「旧暦」「六曜」「干支」「二十四節気」など昔から使われている言葉が書かれていることがあります。

中には聞いたことのない、読み方や意味のわからない言葉も出てくると思います。そこで、新年の第一段として日本の暦(こよみ)に関連する図書の展示を行っています。

例えば、1年で1番寒い日はいつ? 暦の上では春なのに、寒いのはなぜ? そんな疑問の答えも、暦についての図書に掲載されています。占いなども、太陽暦や太陰暦に基づいているとも言われています。読んでみると新しい発見があり、日本の四季や東洋の文化について興味がわいてくるかもしれません。

日本の暦については、国立国会図書館でも紹介されています。こちらも、ぜひご覧ください。

<https://www.ndl.go.jp/koyomi/index.html>

国立国会図書館での  
日本の暦の紹介はこちら➡



新型コロナウイルス感染拡大防止のため、時間を短縮して開館しております。

1月の開館については図書館ホームページをご確認ください。

